

立命館慶祥中学校・高等学校 2020年度 学校目標 年度末報告シート

教育目標	「世界に通用する18歳」の育成		中期目標	①自己の存在について自己肯定感を持って生活できる空間としての学校。 ②基礎学力、持久的体力、高い教養、強い倫理観を利用して問題解決に当たることのできる能力を育成する学校。 ③ボランティアなどを発展させ、社会に貢献することのできる学校。 ④海外から日常的に多くの人々が訪れ、世界を学びの場として活用し、立命館学園におけるグローバル教育の展開を実践する学校。 ⑤保護者が、学校の教育方針と教育内容に共感、賛同、協働し、教員に安心して相談することができる学校。		
区分	A. 課題(上位目標)	B. 目標(中位目標)	C. 達成目標(当年度目標)		D. 自己評価	E. 具体的施策(どのような方法で)
I	中高(大)一貫教育の成長モデルを確立する。	1 附属校の優位性を発揮した高大連携と、各種講演会等による豊かな人間性の育成。	(1)	学内進学5割を目指す。内、立命館アジア太平洋大学への進学者数30名を目指す。	○	①高3学年において、SPおよび他大コース生徒の進路指導の充実を図るなどして、学内進学者を増加させる。また、中3・高1・2学年において、立命館大学およびAPUとのリモートも駆使した連携を実施するなどを行い、両大学への興味関心を喚起する取組を進め、前年度(52%)に続いて目標達成する。 ②学年と英語科が連携し、TOEFLの早期取得について体制整備を含めて話し合うとともに、外部講師を入れた課外でのTOEFL講座を開講し、430点を目指す授業、500点を目指す授業を切り分けて実施する。高1では、TOEFL-ITPテストの早期取得について体制整備を含めて実施を検討する。さらに、中学校においては、中学終了時の英語検定準2級100%を達成することができるように計画を立てて実行する。 ③④高大連携推進予算を有効に活用し、高大連携部を中心として、立命館大学およびAPUへの学内進学者数を増加させるべく実効性のある取組を展開する。高大連携部が英語科および各学年と連携し、TOEFL551講座(トップアップ講座)の積極的な活用を図り、国際関係学部JDプログラムおよびグローバル教養学部への進学を促進する対応を行う。 ⑤生徒会役員と学年主任による会議を新たに開催し、生徒会役員の自治活動を育てる試みを行う。 ⑥部活政策検討委員会の答申を受けて、年次計画をたて、クラブのあり方そのものを抜本的に見直す。
			(2)	立命館コース生徒のTOEFLスコアについては、ITPテスト550点以上10人、500点以上30名を目指す。	○	
			(3)	立命館大学やAPUとの連携企画を実施する。	○	
			(4)	高大連携推進予算の実効ある活用を図り、両大学への進学動機を向上を図る。	○	
			(5)	生徒会活動や寮生による自治活動をとおり、生徒の倫理観やモラルを育てるとともに、リーダーを育成する。	○	
			(6)	クラブ活動をとおり、生徒の倫理観やモラルを育てるとともに、リーダーを育成する。	○	
	2 学力向上を通じて、生徒・保護者・社会から高い信頼を得る。	(1)	2021年度進学先として「東京医50名」を目指す。	◎	①2020年度入試で東京医49名合格とあと1名で目標達成するところまで迫った。2021年度の目標到達に向け、中高教員が生徒の高い志を醸成するとともに、学力伸張に向けた講習や個別指導を地道に実施する。予備校等で実施される研究会へ担当者が出席し、最新の入試や傾向と対策を把握し、受験指導や学習指導に生かす。 ②③進路部が各学年と綿密な連携を図り、中1から高3までを貫くSP指導の高度化を図る。	
		(2)	高校では、進路部と緊密な連携を図り、着実な実績向上、進路講習の実施、徹底した進路指導を行う。	◎		
		(3)	中学では、各学年1月実施のアドバンステストにおいて、東京医合格の指標となる、SS60以上50名を達成する。	△		
		(4)	論述・発表・討論に関わる各種コンクールでの入賞者を輩出する。	◎		
		(1)	高校海外研修旅行のプログラムに新たに「課題解決型」の内容を取り入れ、共通課題に向けた協働の取組を実施する。	-		①高校海外研修旅行において「課題解決型」の内容を検討し、共通課題の解決に向けた協働の取組として、新たにTV回線などの利用により現地高校生との事前学習実施等を検討する。 ②中学NZ研修において、英語能力別のプログラムの検討を進め2014年度より一部実施したが、SPクラスを中心とした高い英語力の生徒のニーズに応え一層の検討を図る。 ③既存のコースの統廃合と新たなコースの創出など、2020年度以降の慶祥の海外研修について、執行部を中心として総合的体系的に見直し検討を開始する。
		(2)	中学NZ研修のプログラム内容の充実を図り、英語力の向上を図る。	-		
(3)	高校において、新たな海外研修コース設定の検討を開始し、慶祥しかできないプログラムを構築する。	○				
(1)	生徒の海外派遣について、「安心・安全」を最優先として、個々のプログラムについて学校としての確かな判断を行う。	-	①新型コロナウイルス禍のもと、実施の可能性について旅行会社や関係機関からの情報を分析し、状況に応じて的確に判断を行う。 ②既存の交換協定以外に学校間交流の充実を行うため、北海道庁等関係機関と一層の連携を図る。 ③外部講師を含めたTOEFLの対策講座を課外で実施する。 ④従来の姉妹校提携や姉妹都市間交流等の交換留学制度の一層の活用を促進する。また、SSHを活用し、シンガポール、タイ、インドネシア、サハリン、カナダ等との交流を今後も継続する。なお、2020年度は新型コロナウイルス影響から派遣・受入人数の目標値を設定しない。			
(2)	海外からの生徒受入れ体制を充実させ、生徒が日常的に世界を体験できる機会の拡大を図る。	-				
(3)	英語指導方法の研究と英検・TOEFLなどの到達目標のステップアップを図り、留学の即戦力となることの出来る人材を育成する。	○				
(4)	姉妹校提携や姉妹都市間交流などの交換留学を活用するとともに、SSHの活用を図る。	○				
(1)	各特色講座にグローバル課題に即したテーマ・教材を設定し、SGH指定終了後も講座内容を継続する。	○		①予算的な課題解決を図りながらSGHで培った内容を学校設置科目において継続する。 ②「観光開発」「国際社会」「アジア学」の講座において、SGHで求められた課題研究の在り方について継続的に研究を行う。		
(2)	学校設定科目である「観光開発」「国際社会」「アジア学」について充実を図る。	◎				
II	グローバル・多文化社会の中でSGHの活用を図るとともに、グローバルリーダーを育てる。	2 学校間交流・長期短期留学プログラムの充実を図り、異文化理解・コミュニケーション力向上を進める。	(1)	2014年度に開催した「ハーバード・MIT研修」をより整備し実施する。	-	①慶祥の海外留学プログラムや海外大学進学についてのガイダンスを全学年対象に実施し、生徒・保護者へあらかじめ周知し、計画的に海外留学や海外大学への進学を促進する。 ②海外進学説明会や高校履修登録説明会やプレエントランスディに「GGP」の説明会を開催し、早期から立命館大学やAPUの海外留学について説明を行う。
			(2)	立命館大学国際関係学部JDプログラム、立命館大学グローバル教養学部に進学者各1名を目指す。	◎	
			(1)	SSH基礎枠の取組を通じて理数教育を充実させ、理系の進学率を向上させる。	○	
			(2)	SSH重点枠認可終了後もトップレベルの研究実践校としての評価を得て、2021年度の再申請を行う。	△	
		3 立命館コースの特色講座を中心に、SGHへの対応化を図り、グローバルリーダー育成を目指す。	(1)	SSH基礎枠の取組を通じて理数教育を充実させ、理系の進学率を向上させる。	○	
(2)	SSH重点枠認可終了後もトップレベルの研究実践校としての評価を得て、2021年度の再申請を行う。	△				
III	正義と倫理観を形成する人間教育と豊かな個性を花開かせる高いレベルの課外活動の実践を追求する。	1 「立命科」やクラブ活動等を通じた人間力の育成。生徒会活動や課外での社会貢献活動を通じた正義と倫理観の醸成。	(1)	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に参加する生徒を100%とする。	○	①立命科において社会貢献活動を検討・提案するなどして、校内的に社会貢献活動醸成のための下地を作る。 ②生徒会執行部会を定例開催し、中高生徒会の安定的な活動のための指導を行う。
			(2)	生徒会活動や寮生による自治活動を通して、生徒の倫理観やモラル教育を育てるとともに、リーダーを育成する。	○	

管理運営課題	I	安全・安心して生徒が通える学校作りと、危機管理が行き届いた学校作り。	いじめ・体罰のない学校作り。	(1)	いじめや自殺等の重大事故を防止する取組を行う。	○	①中学では道徳・技術家庭科、高校では教科情報において行うとともに、学年でも機会ある度に取り上げ、未然防止に努める。また、スクールカウンセラーとの連携による教育相談をより充実させ、情報連携が必要な場合は、チーム会議を開催する。 ②立命館慶祥中学校・高等学校いじめ防止等対策基本方針に基づき、「いじめ」の早期発見を可能にするとともに、「体罰」を生まない集団づくりを行う。 ③学校行事により感動と達成感を共有できる生徒を育て、生徒の個性や多様性を認め合う雰囲気づくりを担当や学年を中心に醸成する。
				(2)	『立命館憲章』にある正義と倫理を持った生徒を育てる教員への啓発と学びを進める。	○	
				(3)	合唱コンクールや立命祭などの学校行事において、困難や軋轢を乗り越えさせる。	○	
	2	執行部・運営会議（ミドルリーダー）の危機管理能力と意識の向上。	(1)	執行部や運営会議メンバーが危機管理能力を形成し、防火管理者取得やリスクマネジメント研修などへの参加を促す（50%以上の参加率を目指す）。	○	①防火管理者講習への参加を運営会議メンバー全員に求め、メンバーの100%取得を目指す。 ②教育・研修センターの協力を得て、ミドルリーダー研修を実施し、運営会議メンバーの能力の向上を図る。	
			(2)	慶祥ミドル・リーダー研修を今年度2回実施し、運営会議メンバーのミドル・リーダーとしての能力を向上させる。	○		
	II	2015年を節目にした生徒募集活動の強化	中高入試体制の強化と寮政策の検討。	(1)	2021年度入試においても、2020年度同様、中高定員を充足させる。	◎	①執行部が先頭に立ち、新規の塾開拓や新規の中学を開拓し、さらに地方創生人材育成制度を拡充し、地方生を集め寮の充足率を向上させる。 ②執行部、入試部が一体となって塾訪問、中学訪問を実施し、優秀生徒の獲得に努める。 ③学校案内パンフの刷新を図り、オープンキャンパスや学校説明会、海外における説明会等について、コロナ禍の中、必要に応じオンラインを駆使して、入試広報活動を積極的に展開する。
(2)				生徒募集活動の安定的運営体制を構築する。	◎		
II	慶祥教育を前進させる学校ガバナンスの改革	慶祥課題の達成へ向けた執行部体制の強化。	(1)	執行部ガバナンスの更なる民主的運営の確立と学校方針執行の推進を行う。	◎	①教員が確実に4週8休を保證できる時間割を編成し、休日出勤の際の振替休日が完全に取得できるように執行部による休日取得管理を徹底する。 ②校務分掌の見直しを図り、教員が教育・生徒指導・学級運営に集中できる体制を整備する。 ③教員賞与のパソコンを活用して教員会議資料のペーパーレス化を図る。また、試験期間中の教員会議は原則廃止し、全教員が採点、成績処理に専念できる業務環境を作り出す。さらに、引き続き教員会議の60分設定を追求する。 ④総務部の業務の一部を事務室で担当する。また、全分掌に職員を担当者を付け、分掌会議に参加するなど、教職協働を追求する。さらに、教務事務のクレオテックへの委託化を進める。	
			(2)	校務分掌体制や諸会議のあり方の検討と組織整備体制の改善を図る。	◎		
			(3)	教員会議の効率的運用を目指して、教員会議資料のペーパーレス化、時間短縮を図る。	◎		
			(4)	事務室との教職協働の検討。	○		

達成状況	<p>①学内進学の高制度化 ・2020年度卒業生の学内進学者は156名（立命館大学139名、立命館アジア太平洋大学17名）進学比率48%となった。前年度の52%から若干比率が下がり目標の50%には満たなかったが、難関の特別選抜である国際関係学部のグローバル・スタディーズ専攻、アメリカン大学ジョイントディグリープログラム、グローバル教養学部、情報理工学部情報システムグローバルコース、文学部キャンパスアジアプログラムにそれぞれ1名ずつ合格した。 ・TOEFL ITP®テストについて、550点以上は10名と目標達成（達成率100%）し、500点以上は25名達成（同83%）となった。</p> <p>②「東京医50」の実現 ・4月15日現在、東京医合格者数65名（東3名、京4名、医58名／達成率130%）と目標を大幅に超過して達成した。昨年度の49名を大きく上回り、過去最高の結果となった。</p> <p>③グローバル教育・サイエンス教育の推進 ・コロナ禍の影響により海外との往来ができず海外派遣、海外生徒の受け入れができない状況が続いた。中3ニュージーランド研修、高2海外研修旅行も時期を延期して実施を模索したが、実施が叶わなかった。 ・SSH重点枠については、基礎枠2期目の4年目を迎えた。新型コロナウイルスの影響で事業の多くに遅延や中止が生じたものの、国際共同研究についてシンガポール（National Junior Collageとバイオステイミュラント等の共同研究など）とタイ（Princess Chulabhorn Science High School pathumthni との共同研究など）とのオンライン交流活動を実施。また、今後のオンラインの可能性を模索する取組として、SSH交流会支援採択事業「高校生ノーザンカンファレンス」（11～12月）を実施し、「30年後のエネルギー選択」について道内のみならず全国にも協働活動を広げることができた。一方、2021年度の重点枠の再指定の申請を行っていたが、残念ながら採択されなかった。 ・SGHは、2019年度までで指定期間が終了したが、その内容を継続させるべく、高校2学年学校設置科目の「Global Awareness」や海外研修（結果として新型コロナウイルスの影響で中止）に反映することで一定の成果をあげる努力を行った。</p>
------	---

改善策	<p>①学内進学の高制度化 ・学内進学に特化したプログラムは高3に集中しており、低学年次における進路を考える機会も限定的で、2020年度は高大連携企画が大幅に縮小するなど新型コロナの影響が少なかった。2021年度はコロナ禍における様々な対応の高制度化とあわせて企画を復調させるだけでなく、特別指定校推薦枠を含む学内進学進路指導のブラッシュアップ、高大連携部が旗振りをするポイント制度の拡充などによって、学内進学の数的かつ質的な向上を図る。</p> <p>②「東京医50」の実現 ・一定数の学力高層の確保が安定期に入り、中高位層の学力伸長が次なる最大の課題である。コロナ禍が大きなきっかけとなって奇しくもICT化を大胆に進めることとなった2021年度は、最も丁寧に行うべき日々の学習習慣の点検をICTにより効率的に行う見直しを持つことができた。また学習コンテンツを大幅に増強することもできたので、一斉型が主流だった授業・補習・講習において学びの個別最適化を促進させる。</p> <p>③グローバル教育・サイエンス教育の推進 ・コロナ禍によって中断した海外研修、SGHの後継プログラムを年明け以降を目途に再開させる。この動きは、小規模化しつつプログラムを多様化させるプロジェクトとあわせて行う。また、実際に渡航できないことも考慮し、様々な形式での交流プログラムも準備する。 ・指定10年目を迎えたSSHは、引き続き重点枠再指定の申請に注力しつつ、本校が差別化を図っている高度な課題研究と3年間に拡大してきた教育課程の充実化を進展させる。コロナ禍が落ち着いた時には、国際プログラムも再開させる。</p>
-----	--

学校関係者評価に関する事項	委員会の構成	委員長：佐伯智也（立命館慶祥中学校・高等学校保護者会会長） 委員：支部英孝（江別市教育委員会委員長職務代理）、林雅子（北海道旅客鉄道株式会社鉄道事業本部営業部長）、小笠原正浩（立命館慶祥中学校・高等学校教育振興会会長）、竹内彪（立命館慶祥会常任幹事）、久野信之（学校法人立命館常務理事）、横澤広久（同一貫教育部部長）、江川順一（立命館慶祥中学校・高等学校校長）、小笠原浩（同副校長） 事務局：松岡宏二（同事務長）
	委員会開催日程 主な議題	<第1回目>2020年7月17日（金）10:00～11:30 議題：①2019年度学校総括について、②2020年度学校方針について、③授業参観とその評価 <第2回目> 2020年12月11日（金）10:00～11:30 議題：①2020年度前半期の学校の取り組み状況について、②授業参観とその評価
	評価、改善事項	<第1回目> 「2019年度立命館慶祥中学校・高等学校教育の総括」および「2020年度立命館慶祥中学校・高等学校の重点課題」について学校より説明を行い、授業参観を行った後、各委員の方よりご意見を伺った。授業参観は、新教室棟Co-Tanでの授業、中学3年生の数学と歴史の授業を中心に行った。主にコロナ禍における在宅学習の取組とソフトウェアに関して、部活動のあり方、オンライン授業のメリットとデメリット、SSH・SGHの継続、提携小学校の状況、などについて意見が出された。 <第2回目> 「2020年度前半期の学校の取り組み状況」について学校より説明を行い、授業参観を行った後、各委員よりご意見を伺った。主には、コロナ禍における学校の対応の確認、特に宿泊を含む行事が中止という判断のなかで学力だけではなく人間の成長をさせるにあたりどのように対応しているのかの確認、報道にある学校法人田中学園との関係の確認などがあり、さらに子供たちの発表の場はコロナ禍の状況にあっても継続的に提供すべきであること、生徒はもちろん教員側も心身のバランスを崩さないような配慮が必要であることなどの意見が委員から出された。